

武庫川女大家政

藤原

康晴

○高田

絢子

安田

武

1. 正絹ちりめんの和服地としての特性には、染めあがりの鮮明さ、しぼ立ちをもつ表面状態、光沢などとともにしなやかさがある。このしなやかさは着用した場合の見た目に美しい垂れ具合—ドレープ性—と関連して重要である。市販されているちりめんのタテ、ヨコ、バイヤス方向の剛軟度を種々の方法で測定し、ちりめんの種類などに関連させて考察してみた。

2. 試料の正絹ちりめんは、染色仕上げ後の市販品、一越ちりめん、変りちりめんなどを用いた。タテ、ヨコ、バイヤス方向の剛軟度をカンチレバー、クランク、ハートループ法によって測定し、ドレープ性は Hamberger のドレープ係数を求めた。また、インストロンによる応力-歪曲線、パイブロンによる  $\tan\delta$  の測定をも併せて行なってみた。

3. 平面ドレープ係数は 30~40% のものが多く、一般の衣料用織物に比べ柔軟性に富んでいる。ちりめんのタテ、ヨコ、バイヤス方向の応力-歪曲線は大きく異なるが、剛軟度はあまり変わらないものが多い。なかには剛軟度の方向依存性をもつちりめんもあるが、その違いは、カンチレバー、クランク法よりもむしろハートループ法に鋭敏に反映される傾向がある。